

府立富田林高等学校 グライバウスキー ジュリアンベネット教諭（指導専任）

Q1：英語エキスパート教員になる前の経歴も含めて、自己紹介をお願いします。

私はアメリカ人で、ずっと異文化や世界各国のことを調べたりして、実際に見てみたいという気持ちを抱いていました。私が小学校3年生のころ、日本に留学して帰国した高校生が自分の経験を発表しに私の学校に来てくれました。それに合わせて私たちは学年で日本のことを勉強し、私は初めて抹茶を飲む体験をしました。8歳だった自分の感想は「苦い。」の一言だったらいいです。しかしながら、私自身も世界にでて住んでみたいという気持ちも初めて感じました。



数年後、地元の高校に進学するにあたって、外国語科目としてフランス語かスペイン語を選ぶことができましたが、私は学校におねだりして両方を選びました。（苦笑）でもその当時はたまたま登校時刻前のテレビで放送されていた日本のアニメを観てファンになりましたので、日本語も勉強したくなりました。教科書もなく先生もいなかったので、独学でひらがなとカタカナや、一部の漢字をとりあえず覚えしました。大学で初めてちゃんとした日本語の授業を受けて、3回生の後半を京都で過ごしました。カルチャーショックや失恋もあって、山あり谷ありの数ヶ月でしたが、結局もっともっと日本のことを知りたいと感じて、卒業後はまた来日して、英語講師として勤めました。

来日して1年ほどがたった時、知り合いの誘いがきっかけで、大阪府のNETとなって、6年間に渡って大阪府立高校で働きました。その当時は、いずれは教育者になるであろうと思っていた自分でしたが、実際に教育の場で働いてみると、生徒たちの人生に影響を与えることができるという手応えを感じて、やはりいい仕事ですね、と思いました。ただし、NETはカリキュラムを変えることはできないこと、場合によっては何週間か何ヶ月間同じクラスの生徒に会わないこともあるので、続けるならもう少し仕事内容をコントロールできる責任のある役割がいいなと思いました。その後、妻と子供二人と渡米（自分にとっては帰国）しましたが、家族の諸事情や当時のアメリカの情勢の影響により、また日本に戻ることにしました。

Q2：英語エキスパート教員の採用選考を受験したきっかけを教えてください。

以前NETを勤めていた頃の知り合いから当時の「ネイティブ英語教員」枠の話聞いて、応募してみました。

一旦帰国したときは「SET」が設けられていましたが、また来日したときには既に無くなっていて聞いて、残念だと思いました。再び来日して、翻訳業に就いたのですが、半年もしないうちに新型コロナウイルスのパンデミックが始まりました。当初は、家でもできるということをメリットに感じていましたが、一人で作業を続けて他人と全く交流しないことも多く、教育の場が恋しくなりました。ですので、新しいフルタイムの教員として働ける仕事ができると聞いて、これがチャンスだと思い、応募してみました。

Q3：ALT(外国語指導助手)等として働いていた時と現在で、授業や生徒との関わり方にどのような違いがありますか。

ALTやNETも英語を教えますが、カリキュラムや成績設定、生徒たちの進路関係に関わることはなく、校務分掌や校内委員会に参加することはありません。アシスタントとして教える授業の量が多いですが、その分、じっくりと準備を進める時間があります。

また、ALT や NET としての目的は何といっても生徒たちに「英語を喋らせる」ことですので、常に英語で話しかけフレンドリーな形で接することが多かったです。一方、英語エキスパート教員は進路希望や成績、そして生活面での指導もする必要があるので、「お兄さん」から「親」みたいな存在になったと感じています。駆け足の毎日ですが（笑）、生徒たちのことをよく知ることができて、より重要なところを担っているからより影響を与える立場です。もちろん私としてはどうすればもっと生徒に英語とかわらせることができるかということを常に意識しています。

Q4：実際に英語エキスパート教員として働いてみて、意識していることを教えてください。

授業で意識していることは、「カリキュラムに沿って教えながら、4 技能のバランスを考えて、話す場面を必ず与えること」です。論理表現の授業ではどうしても文法の説明などもありますが、その文法項目を使うことも大事ですので、正しい文法で表現させることを意識しています。

また、事務的作業については、校務分掌や校内委員会、クラブ活動との両立を考えて、できるだけ支障なくこなすことです。まだごちないですが…。

Q5：「英語エキスパート教員としての 1 日」を教えてください。

（私は担任ですので、一部のことは人によって異なりますが、参考まで）一日は前日の放課後から始まります。教室掃除の後、黒板に翌日の日直と朝の連絡事項を書きます。その後、翌日の授業の準備が残っている場合（プリント印刷やスライドショーづくりなど）、それを完成させます（できるだけ前日より前にできるようにはしていますが）。そして同じ授業を担当している先生たちとの打ち合わせを経て、翌日以降のことをざっくりとでも計画を立てて、役割分担と日程を自分のメモに書き込みます。また、翌日に会議などがあれば、必要な資料を用意しておきます（担任会議なら連絡事項など。自分の入っている分掌（生徒会部）なら担当である部活動関連など。）。

当日はだいたい 8：00 出勤で、朝礼の 8：30 までに生徒からの欠席遅刻の連絡を事前に校務処理システムに登録し、最初の授業の準備もします。朝礼が終わったあとは、生徒の進路相談や指導、欠席者の保護者連絡などを行っています。

Q6：英語エキスパート教員として勤務して以降、印象に残っている出来事を教えてください。

今まで一番感動したのは担任になって起こったことです。それは、生徒たちが自ら計画から実行まで行ってきた文化祭の出し物です。特に 1 年生のときは、最初は生徒たちがやりたかった喫茶店のテーマがなかなか決まらなかったで、私からふと提案した「大正ロマン」がすんなり採用されてしまいました。その後、生徒たちが自分で動いて、衣装に飾りに、そしてメニューまで考えていました。その後の体育祭でも T シャツのデザインなども本人たちですべて決めました。その出来栄は本当に凄くて、成長を感じました。しかし、毎回、何故か私自身の名前や顔が題材になっているのは少し気になります…。(汗)

Q7：これから英語エキスパート教員の選考に応募しようかと考えていらっしゃる方に向けて、メッセージをお願いします。

英語エキスパート教員は NET とはまた違う感じの仕事ではあります。特に、以前よりも、クラブ活動や学校運営、そして進路関係まで、幅広く生徒たちの未来を担っている存在になります。忙しいのは事実ですが、毎日その価値を実感する事ができて、感動するところがたくさんありますので、ぜひ応募してみてください！